

# アジア視点で生きる沖縄県

沖縄県は2012年に本土復帰40年を迎えた。今後の10年間の沖縄振興の指針となる新振興計画は、40年を契機に県が初めて立案を主導した。IT企業の立地促進や空港・港湾周辺の国際物流拠点化などを基本施策とする。琉球王国時代の15世紀に鐘に彫られた「方国津梁」は、世界の架け橋を意味する。東アジアの中心に位置する沖縄において、その経済的役割は、今こそ最大化しようとしている。

**電力安定  
ITにも好条件**

地震の少なさやエネルギーの安定も沖縄は優位にある。近代的地震観測が開始された1926年以來、沖縄本島で震度5以上を観測したのは1度のみ。豊富な電力予備率は電業の伸長を防げない。

沖縄電力吉の浦火力発電所(中城村)は、発電能力約25万キロワットを持つ1号機が12年11月に稼働し定だ。液化天然ガス(LNG)を燃料とし、温室効果ガスの排出が石炭や

石油に比べて少ない。今後も同規模の2号機が13年5月、3号、4号機は12年度以降導入の予定。

今年度、新たに始まる「沖縄21世紀ビジョン基本計画」は、

テムの開発拠点としての位置づけがカギ。一人一人材の育成とともに、クラウドコンピューティングサービス創出や、組み込みソフト開発などで付加価値を高める。

観光でも11年7月に中

國人向けに沖縄数次査証(マルチビザ)制度がスタートし、ハブ化が進む。

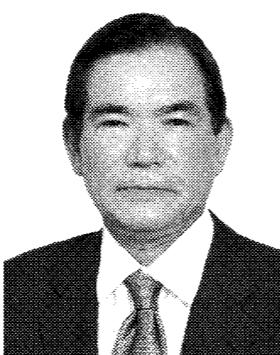
沖縄観光コンベンションビューロー(那覇市)は民間と行政の間を取り持ちながら、観光マーケティングを充実する。観光どころ大規模会議や展示会のニーズに受け入れ施設を含めて応える。取引など海外の顧客を招くに

ても好条件だ。沖縄県はデータセンターやコールセンターの集積に留まらず、ソフトウェアやシス

ト区。用地取得費の最大33%分の用地を分譲した。同地域は法人税・課税所得への出荷に対する年間240万円までの輸送経費を控除や閑税面などの税優遇措置を受けられる。

製造拠点としては、うるま市の国際物流拠点産業積地域がある。現在、半額補助や県外・海外への出荷に対する年間200万円までの輸送経費を構築できる。2012年9月には那覇港、那覇港に隣接する旧自由貿易地域内に、延べ床面積約3000平方メートルの物流網と組み合わせる「バーチャンセンター」としての利用などを活用方法が広がる。

これまで沖縄と本土との距離はネットだった。だが新興国の急速な発展とともに視点をアジアに移すことで、その距離は強みになった。全日本空輸は09年、那覇空港を中心に成田と羽田、関西の各空港とソウル、上海、香港、台北そ



仲井眞弘多氏

沖縄県知事

國場幸一氏

沖縄県経済団体会議議長

復帰特別措置や、沖縄振興計画などの国の御支援と沖縄県民の努力の結果、着実に経済の発展してまいりました。この地の利を活かし、沖縄県では航空貨物ハブが国内外8都市を結んで居ます。

この基本計画の実現のた

めに、沖縄は自立型経済の実現を

生まれ変わる

年に、沖縄は日本のアジアに向かってビジネス拠点へと生まれ変わることで、その距離は縮んでいます。

沖縄は生まれ変わる

これまで沖縄と本土との距離はネットだった。だが新興国の急速な発展とともに視点をアジアに移すことによって、その距離は強みになった。全日本空輸は09年、那覇空港を中心成田と羽田、関西の各空港とソウル、上海、香港、台北そ

れで、輸送しても約7時間。夜間に輸送する翌日配送体制が実現した。小口配達でもヤマトホールディングスが、翌日

す。成長著しいアジアへ目を向いたとき、日本の最南端にある沖縄県は、本土各地やアジアの主要都市から飛行機で4時間圏内に到達可能な位置にあります。

この基本計画の実現のために、沖縄は生まれ変わる

年に、沖縄は日本のアジアに向かってビジネス拠点へと生まれ変わることで、その距離は縮んでいます。

沖縄は生まれ変わる

これまで沖縄と本土との距離はネットだった。だが新興国の急速な発展とともに視点をアジアに移すことによって、その距離は強みになった。全日本空輸は09年、那覇空港を中心成田と羽田、関西の各空港とソウル、上海、香港、台北そ

れで、輸送しても約7時間。夜間に輸送する翌日配送体制が実現した。小口配達でもヤマトホールディングスが、翌日

す。成長著しい